

付記

インフルエンザウイルス不活性化試験結果の見方について

インフルエンザウイルス不活性化試験結果表の見方は次の通りです。

1、TCID₅₀

TCID₅₀ 法とは、ウイルスに感染すると細胞の形状が変化する現象(細胞変性)を利用したウイルス量の測定法で、感染価(力価)で、“50%の細胞に感染するウイルス量”ということの意味します。

2、試験結果表の見方

下記試験結果は、

「アクダッシュは、10の6.5乗 TCID₅₀/ml の IFV を 30 秒で 10の2.5乗 TCID₅₀/ml 未満に 不活する」効果があるという事を示しています。

結果、<2.5:「検出せず」と規定している為、「不活」と判定されています。

※ IFV:インフルエンザウイルス

試験ウイルス	対象	log TCID ₅₀ /ml [※]		
		開始時	30 秒後	5 分後
インフルエンザウイルス	検体	6.5	<2.5	<2.5
	対照	6.5	6.5	6.3

<2.5 :検出せず

3. log TCID₅₀ の TCID₅₀ への換算

経過時間(秒)	アクアダッシュ AX-01		精製水(対照試験)	
	log TCID ₅₀	TCID ₅₀	log TCID ₅₀	TCID ₅₀
0	6.5	3,162,278	6.5	3,162,278
30	2.5	316	6.5	3,162,278
300	2.5	316	6.3	1,995,262

感染価(力価) 3,162,278 を 30 秒後には検出限界未満(316)に不活する効果を有する。

以上